

Ikiiki
MaebaShi
Jin



県さくら協会会長
小堀 長夫さん・81歳
市之関町

桜で日本とタイの交流

タイ北部チェンライ県で桜を植樹している。平成26年からこれまでに植えた桜は約1,600本。ことし12月にはさらに約1,000本を植樹する予定だ。

小堀さんがチェンライ県を訪れたのは、ボイセンベリという木イチゴの栽培地を探していた時。ふとしたことからフラワーフェスティバルでそば打ちを披露したのがきっかけで、同県とつながりを持つようになった。現在では年に4、5回訪タイし、植えた桜を手入れ。青年団の役員をしていたときに赤城南面千本桜を植え、見守ってきた経験が生きている。

なるほど、私の負担が増えるばかり。でも、始めたからにはやめられないんです」と小堀さんは笑う。

「植えた桜は50年後も毎年花をつけてくれます。花を見た人は、きっと日本のことを思ってくれるはず。それが一番の交流だと思っんです」

小堀さんの植えた桜は同県の県庁や空港、大学、王室の別荘などで咲き誇る。その縁で同県から、赤城南面千本桜に訪れる人もいる。ことしも何人が訪れる予定という。もうすぐ桜の花の咲く季節。小堀さんの植えた市内とタイの桜は、離れていても両国の友好の花を咲かせてくれるだろう。



五輪で交流目指し協力

2月26日、県柔道連盟と東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン構想の覚書を締結しました。本市は柔道をとおしてハンガリーと長く交流。1月26日には同国のホストタウンに第一次登録されています。今後、協力して構想の成功に向け取り組みます。



この連載では、さまざまな角度からアーツ前橋を紹介いたします。第17回は山梨県を拠点に活動するアーティストの木村宗人さんです。

前橋での滞在制作を経て

昨年8月から9月までと、ことしの1月から2月まで、約70日間前橋で滞在制作をしました。馬場川通りのあずまやを作品化したのですが、嬉しいことに地域の人の管理で作品が継続して残ることに。作品を作る際に意識したのは赤城山の自然と地域の人の関わりの2つ。豊かな自然を持つ赤城山を体感できる場所を、まちなかに作りたいたい思いました。また、美術館の中でなく、外で制作するため、地域の人の関わりが重要です。



そこで、許可を得て採集した赤城山のコケや植物を木のプランターに植え、1カ月地域の人に預かってもらいました。みんなが大事に育ててくれたプランターをパズルのようにあずまやに並べました。今後も多くの人たちがあずまやを楽しめるよう、地域の人や大学生と話し合い、手を加えました。植物をより身近に感じられるよう椅子を作ったり、屋根や壁に設置してあるコケに植栽したり、野鳥の巣箱を作ったり。春になると植栽した植物がぐんぐん伸び、花が咲くなど、より変化が楽しめると思います。ここがみんなの庭のようになり、楽しみながら自由に手を加え、見守ってくれたらうれしいです。私もまた前橋に来て、変化を見るのが楽しみです。

問い合わせは
アーツ前橋 ☎027-230-1144



長沼順一議長



金井清一副議長

市議会の正副議長決まる

第1回定例市議会が3月2日に開会しました。新しい議長には長沼順一議員を、また、副議長には金井清一議員を選出。平成28年度の一般会計予算などについて、審議をしています。本会議では代表質問や総括質問などが行われ、会期は3月29日(火)までです。



世界の小栗康平が前橋に凱旋

2月27日に、アーツ前橋のアートスクール・映画「FOUJITA」を語るを開催しました。本市出身の映画監督・小栗康平さんが自作の最新映画について講演。「映画はディテールが命。芸術として捉えるかは鑑賞者の判断」などと、映画の見方を熱心に指南しました。